

介護・医療連携推進会議記録

開催日時	令和 8 年 9 月 25 日 (金)	場 所	株式会社グッドライフケア 大阪オフィス7階大会議室
	18時30分 ～ 19時30分		
参加者	地域包括支援センター 職員3名、医療連携室 職員1名、病院 医師1名		
○利用者推移の数値的データの紹介と考察 ○事例紹介 ○意見交換・質疑応答			
活動内容等の評価 感染症対策のため『Zoom』を用いて本会場と併せて会議を実施 Zoom参加者 外部 5名 職員 11名 (最大接続時) 本会場参加者 外部 0名 職員 6名 参加者合計 22 名 ・定期巡回 介護度別グラフ (令和8年1月～6月)、4区別利用者推移グラフ (令和8年1月～6月) ・事例発表 「同居家族とともに寄り添うターミナルケア」 ・意見交換・質疑応答			
内容 ○要介護度別の定期巡回利用者数の報告 ⇒要介護度が比較的低い利用者数が多い傾向 (短時間訪問が基本となる定期巡回の特性による) ○利用者推移の数値的データの紹介と考察 ⇒訪問介護への強い拒否を示される方や在宅時間が不規則な方への最初のアプローチとして 定期巡回を選択いただくケースが多い (ある程度形になったら訪問介護へ移行) ⇒各支店の増減は居住環境・生活環境など地域性が影響している。 ⇒入退院等生活環境に変化が生じた際に訪問介護から定期巡回に変更するのは、在宅生活を送る為の 優先順位が短時間・複数回訪問へシフトした際の選択肢として定期巡回が機能しているため ○看護定期訪問がある場合とアセスメントナースの割合の紹介と考察 ⇒短時間・複数回訪問が基本となるため、ご利用者様の状況に合わせて看護と相談しながら 月中でも予定を調整できるのも定期巡回のメリットと言える。 ○事例紹介 ⇒ご利用者様について ・ご家族で卸売業を長年経営、地域社会に貢献 ・2012年に肺癌と診断、術後化学療法をしながら2024年まで仕事に従事 ・住み慣れた自宅で最期まで生活したい思いが本人・家族に強い ⇒自宅療養中に転倒、入院したがADLが低下したが本人の強い希望を家族が叶えるため自宅療養を決断 家族が退院後の自宅介護、特に日常生活介助に強い不安があり担当CMがGLCに相談、サービス開始 ⇒寝たきりのため褥瘡リスクが高く、排便への対応を不安視されていたが、定期巡回にて月・木は 訪問看護1日1回GLC1日3回介入、それ以外はGLCが1日4回介入、コール機による 随時対応も体制整備 ⇒日々の著しい状態変化に対し、多職種連携を図りながら迅速なケアを実施、「緊急対応が出来る」 「2時間ルールの縛りが無い」「24時間随時対応」「短時間で細やかなサービスが出来る」 定期巡回の強みが発揮できた ○意見交換・質疑応答 ・質問：緊急コールが鳴ってどれくらいで訪問しているか。 ⇒回答：日中は5～10分、混み合っている時間帯、早朝深夜などは15分～30分 ・質問：早朝・夜間は夜勤の介護士が電話対応、訪問をするのか。 ⇒回答：ご利用者様にお渡ししているコール機から夜勤者が持っている緊急携帯に連絡が入り、連絡を 受けた夜勤者が応答、対応している。弊社がコール機を用意している。(自宅電話ではない) ・質問：「多職種連携のためのノートを用意した」とあったがICTを活用した情報共有ツールは 使っているか。 ⇒回答：chatworkというSNSを使用してタイムリーに情報共有している			
事業所名	グッドライフケア 2 4 大阪	記録作成者	令和 8 年 9 月 30 日 今西 豊

※原則として会議開催 2 か月以内にこの記録を作成・公表すること